

世界物理年企画
リフレッシュ理科教室
—科学が拓く新しい暮らし—
によせて

応用物理学会関西支部
支部長 越川孝範

1905年にアインシュタインが物理学上特筆すべき3つの大きな理論を出しました。この3つの理論とは、1. 特殊相対性理論、2. 光電効果の理論、3. ブラウン運動の理論です。これらは今も現代物理学に大きな影響を与えており、この年は奇跡の年と言われていています。アインシュタインはこのうち光電効果の理論でノーベル賞をもらうことになりました。今年はそのちょうど100年目にあたります。またアインシュタインが1955年に亡くなってちょうど50年になります。この2つのことを記念して国際連合の総会で今年を「世界物理年」にすることが決まりました。世界中でいろいろな行事が行われていますが、日本でも種々の行事が「世界物理年日本委員会」（会長：有馬 朗人元文部科学大臣）のもとで企画・実行されています。応用物理学会もこの企画で中心的な役割を果たしています。関西支部でもそれに呼応して、従来から行っている「リフレッシュ理科教室」を今年の世界物理年企画と位置づけて実施することになりました。

特に最近、小・中・高校生の理科離れが深刻になってきていることは、この国の将来を考えると大変憂慮すべき問題であると考えられます。応用物理学会では物理学会、物理教育学会等と協力して文部科学省ならびに中央教育審議会等へたびたび提言を行ってきました。最近はこの数が以前に比べて大変多くなってきました。このことは理科教育に大きな問題が生じていることを物語っています。事実文部科学省は近来「ゆとり教育」を実施するというところで教育課程の内容を随分減らすということを行ってきました。これはいわゆる「おちこぼれ」を減らし、教育現場で生じている種々の歪みを減少したいということが大きな動機でありました。しかし逆に学力低下が大変深刻な問題としてクローズアップされるようになりました。特に理科や数学に興味を持たない児童や生徒が増えていることは大変大きな問題として取り上げられるようになってきています。このことは日本では特に一般の方々が科学に大きな興味を示さないことも密接な関係があります。このような事態を少しでも改善しようという意図で始まったのが「リフレッシュ理科教室」です。学会も従来の研究者集団という垣根を越えて、一般社会に語りかけるようになってきました。これは大変重要なことであると認識しています。

今日の講演では松田先生の大変興味があるお話があります。皆さんにやっていただく実験も支部の幹事の方々、大阪電気通信大学の先生方の協力を得て面白いテーマを選ぶことが出来ました。今日一日ぜひ楽しく理科と接して理科を好きになってください。